

【ポスター発表】

大都市における単身の要援護状態にある低所得高齢者の実態

—インフォーマル資源とのかかわりの現状に焦点をあてて—

○ 梅花女子大学短期大学部 綾部 貴子 (3308)

原田 由美子 (京都女子大学・6076)、新井康友 (中部学院大学・7336)

キーワード：在宅単身、要援護状態、低所得高齢者

1. 研究目的

本研究では、大都市で単身生活をおくっており要援護状態にある低所得高齢者の実態を把握するために、インフォーマル資源とのかかわりに焦点をあて、その現状を報告する。

2. 研究の視点および方法

調査の対象は、札幌、仙台、東京、大阪、北九州等の大都市においてホームレス支援から地域の低所得の高齢者をも含めた支援活動を展開するNPO法人や社会福祉法人等の団体（以下、団体）から支援を受けている単身の要援護状態にある低所得高齢者（以下、対象者）650名である。調査方法は、調査協力を打診し了解を得られた団体に郵送し、団体に所属する職員が担当の高齢者に対して調査項目の質問を行い、回答を記入していく他記式調査を行った。なお、本研究では対象者を「60歳以上」と位置づけた。調査期間は平成24年11月1日～平成25年1月31日であった。調査項目は、『基本属性』『インフォーマル資源とのかかわり』19項目を設定した。本研究では「インフォーマル資源」を「家族、友人、知人、近隣、ボランティアの人」とし、「かかわり」の内容については、「普段、自分（対象者自身）にしてくれる人」（以下、「自分にしてくれる人」と「普段、自分（対象者自身）がしてあげる人」（以下、「自分がしてあげる人」）両者の存在の有無についてそれぞれ質問をした。調査項目は、「1.お金に困っているとき、頼りになる人（相談にのってあげる人）がいますか」「2.病気で寝込んだとき、身のまわりの世話をしてくれる人（身のまわりの世話をしてあげる人）がいますか」「3.引越しをしなければならなくなったとき、手伝ってくれる人（手伝ってあげる人）はいますか」「4.わからないことがあるとき、よく教えてくれる人（よく教えてあげる人）がいますか」「5.家事をしたり、手伝ってくれる人（手伝ってあげる人）はいますか」「6.何が心配事や悩み事があったとき、聞いてくれる人（聞いてあげる人）」はいますか「7.あなたに気を配ったり思いやったりしてくれる人（思いやってあげたりする人）はいますか」「8.あなたを元気づけてくれる人（元気づけてあげる人）はいますか」「9.寂しくなった時に、話し相手になってくれる人（なってあげる人）はいますか」「10.会うと心が落ちつき安心できる人（あなたに会うことで安心する人）がいますか」「11.気持ちの通じあう人（あなたと心を通わせたいと思っている人）がいますか」「12.常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる人（察してあげる人）がいますか」「13.日頃、あなたを認め評価してくれる人（あなたが認め評価してあげる人）がいますか」「14.あなたを信じてあなたの思うようにさせてくれる人（あなたが信じて思うようにさせ

てあげる人)がいますか」「15.あなたの喜びを我が事のように喜んでくれる人(あなたが喜びを我が事のように喜んであげる人)がいますか」「16.個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる人(あなたに個人的な気持ちや秘密を打ち明けてくれる人)がいますか」「17.お互いの考えや将来の事などきいてくれる人(相手の考えや将来の事など話しをきいてあげる人)はいますか」「18.一緒に出かけたりしてくれる人(外出時に付き添ってあげる人)はいますか」「19.家を訪ねて会ってくれたりする人(あなたが家を訪ねて会いに行き行ってあげる人)はいますか(以下、「1」「2」)を設定した。回答選択肢には「いる」「いない」を設定した。調査項目は先行研究より選定し、現場職員によるエキスパートレビューやプリテストを行い設定した。分析対象は欠損値を除いた375名(57.7%)とし、分析方法は「自分にしてくれる人」「自分がしてあげる人」両者の各項目の単純集計を行った。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮としてA大学臨床研究倫理審査委員会(承認番号24-4)で承認を得て調査を行った。研究の趣旨や匿名性の確保、データ管理方法について対象者に文書で説明を行い、承諾書に署名(できない場合は職員が代筆)を求めた。

4. 研究結果

『インフォーマル資源とのかかわり』における「自分にしてくれる人」の存在に関して、「3」「4」「6」「7」「8」「9」「10」「18」の項目は「いる」と回答した者が多かった。「自分がしてあげる人」の存在に関して、「7」「8」の項目は「いる」と回答した者が多かった。「自分にしてくれる人」の方が、「自分がしてあげる人」よりも多く存在していた。両者の共通回答として、「7」「8」項目は「いる」と回答、「1」「2」「5」「11」「12」「13」「14」「15」「16」「17」「19」は「いない」と回答した者がそれぞれ多かった。

5. 考察

『インフォーマル資源とのかかわり』における「自分にしてくれる人」に関して、「3」「4」「6」「7」「8」「9」「10」「18」の回答結果から、わからない事や心配事、寂しさといった不安への支援や安心感を与える情緒的なかかわり、転居や外出同行等移動に関する手段的なかかわりのあるインフォーマル資源が存在していた。また、「自分にしてくれる人」と「自分がしてあげる人」両者共通の回答傾向に関して、相手との関係性を築きあげる初期の導入部分と考えられる相互のかかわり(「7」「8」)はできている現状が窺える。一方、「いない」と回答した項目(「1」「2」「5」「11」「12」「13」「14」「15」「16」「17」「19」)は、互いに(信頼)関係を築きあげたなかでの深いかかわりの内容が多いことから相互のかかわりが難しい現状だと推察される。団体や職員には、対象者が一歩前進できるようなインフォーマル資源とのかかわりづくりへの介入や地域づくり、インフォーマル資源との役割分担を含めた職員自らの支援をどのように展開していくのか等の検討が求められる。

本研究は、平成24年度「学術研究助成基金助成金」(基盤研究C)を受け「大都市における単身の要援護状態にある低所得高齢者が必要とする支援に関する研究」(代表:原田由美子・課題番号23530783)の研究成果の一部である。